

・飼料作物・

雪印改良種の解説

上野幌育種場

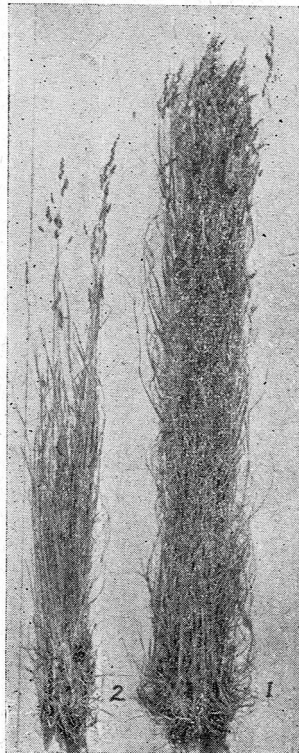
弊社では上野幌育種場(北海道札幌市)並びに千葉育種場(千葉県糟粕村)において飼料、緑肥作物の品種改良を実施しておりますが、その中特に自信をもつて栽培家にお奨めのできる改良品種は、雪印改良種の名を冠して販売いたしておりますが、既発表の改良種の反響は意外に強く、育成経過、特性、利用法等についての照会も屢々ありますので、以下数回にわたつて飼料作物雪印改良種の概要解説を試みたいと思つます。

一 オチャード雪印改良一號

(一) 改良目的 晩生、多収、温暖地における禾本科永年牧草の大宗であり、寒冷地における赤クロパーとの混播の多いオチャードグラスは、温暖地においてはさらに多収のものを、寒冷地においては赤クロパーの開花期(刈取適期)と出穂開花期(刈取適期)の合致するものが強く要望されております。

(二) 育成経過 戦前ソ連ウクライナ地方より導入したオチャード中に晩生で生育旺盛な個体のあるのを発見、これらを選抜し、昭和二十年より型の濃厚化(Concentration

of types)につとめ、いわゆる group breeding によつて育成したものです。なおこの育成素材は北海道農試及び野幌機農学校において保存されていたものを分譲増殖した



1 オチャードグラス雪印改良一號
2 オチャードグラス在來種

オチャードグラス雪印改良一號特性概要

品名	調査項目			生育			調査			収量			調査			家畜嗜好	
	起生期	出穂期	成熟期	刈取期	二年目	三年目	平均	尺間	二年目	三年目	平均	同上	二年目	三年目	平均		同上
オチャードグラス雪印改良一號	四・中	六・中	七・中	六・下	二〇	一五	一五	三	五・九	〇・七	〇・七	一三	二・六	四・七	三・七	一三	良好
オチャードグラス在來種	四・中	五・下	七・上	六・上	二〇	一四	一三	三	三・五	四・七	五・五	一〇	八・四	三・九	二・七	一〇	良好

備考 1 畦幅二尺条播、反当り播種量三听(三六〇匁)。

2 施肥料毎年春、硫安五・〇貫、過石三・〇貫、硫加二・〇貫、畦間に施し中耕攪土。

3 播種昭和二十三年八月下旬。

ものです。

(三) 特性 特性概要は次表のごとくで在來種に比して出穂期は約二週間遅く、赤クロパー在來種の開花期と合致し、また収量においては約四割の増収が期待できます。

(四) 利用上の注意 ①温暖地においては生育期間が長いのでオチャードの二番刈はもちろん三番草も期待できるわけですが、このような地帯では晩生多収な本品種を利用されるのが有利です。②寒冷地における赤クロパーとの混播相手としてのオチャード

在來種は赤クロパーの刈取適期に収穫すると生育が進んでいて茎葉が硬化し、飼料価値、飼料利用率の低下を来すのと、永年放置すると株化して、モーターの使用が困難となるので、オチャードよりも再生力の弱いチモシーを多く用いておりますが、茎葉の硬化は晩生の本改良種で完全に防止でき、一番草はもちろん三番草も再生旺盛なオチャードを用いて収量をあげたいものです。なおオチャードの生産力の最も高いのは播種後二〜三年目ですから、実際は株が隆起する頃は生産力の低下を来しているときですから、三〜四年で更新するようにしますと、機械の使用に便利なばかりでなく増収もできるわけです。

したがつてオチャード雪印改良一號は温暖地では多収が期待でき、寒冷地で赤クロパーと混播しても収穫適期が合致して、良質な飼料を多量に生産できるわけです。